

【足立区地域自立支援協議会子ども部会】会議概要

会 議 名	平成30年度 第5回 【足立区地域自立支援協議会子ども部会】
事 務 局	福祉部 障がい福祉センター
開催年月日	平成31年2月5日 (火)
開催時間	午後3時00分 ~ 午後5時00分
開催場所	障がい福祉センター 研修室3
出席者	別紙のとおり
欠席者	別紙のとおり
会議次第	次第 1 開会 事務局より 2 議事 (1) 部会長挨拶 (2) 課題について (3) 協議 (意見交換) 3 事務連絡 (1)
資 料	平成30年度足立区地域自立支援協議会第5回子ども部会次第 第4回足立区地域自立支援協議会子ども部会議事録 (公開用) 平成30年度区小研知的障がい部一覧票 (梅田委員) 機関連携関係図 (各委員) 課題一覧表 (事務局)
そ の 他	

様式第2号 (第3条関係)

(協議経過)

1. 事務局より

(1) 司会より挨拶・開会

○事務局勝田(あしすと)

お忙しい中お越しいただきありがとうございます。

本日より中央本町・地域総合保健センター保健師近藤るみ係長にご参加いただいています。

○近藤オブザーバ(保健師)

よろしくお願いします。

○事務局勝田(あしすと)

—資料の確認—

議事録作成のため録音しております。ご了承ください。

では今年度最後の第5回子ども部会を開催いたします。

(2) 開会挨拶

宮田障がい福祉センター所長

皆さんこんにちは。

お忙しい中お越しいただきありがとうございます。本日が最後の5回目の部会となります。これまでの意見をまとめて本会議に報告したいと思います。

2 議事

(1) 部会長挨拶

○加藤部会長(うめだあけぼの学園)

今年度スタートした、新しい体制の自立支援協議会子ども部会の第5回目となる。5回という回を重ね、今日があるが、意外と5回も短いという気がする。もっと時間があればと思わざるを得ないが、5回よく頑張ったとも思う。委員の皆様の格段の努力をいただいた賜物と思っている。心より感謝と敬意を表したい。

先ほど司会からあったように、今年度は2年任期の初年度で来年1年あるわけで、当初確認したように、この2年の間、足立の地で子どもたちに安心、安全の具体的なアクションを示したいと思っている。初年度については、この足立区内にある子ども関係者に参加していただいている。そういう意味では自分の守備範囲はそれなりの見識をもち実践を重ねているが、残念ながら、子どもたち、保護者の方の様々な課題には我々の守備範囲はあまりに狭いと言わざるを得ない。自分の守備範囲だけの見識では圧倒的に非力であるのは間違いない。それぞれの関わっている世界、ミッションをもちながら見えている世界、問題意識、課題などをお互いにとりあえず共有しようということだったと思う。課題はいろいろあったと思うが、とりあえず3つ、ピックアップしていただき、ご報告いただき、お互いを知る、理解することを含め共有することを、4回かけて実施してきた。そういう中で、最終的にそこから絞り込んだ、それぞれのお立場の課題提起から共通するものが浮かび上がってきている。その中で、優先順位をつけて取り組もうということで、足立区にはたくさんの関係機関があるため、まずは連携について取り上げた。それぞれの立場で多彩、多様なネットワークをされていることが見えてくるかと思う。お互いに足りない部分や、ここは協力できたら、など新たな気づきが浮かび上がってくるかと思う。今年度の締めとして出来たらいいと思う。後半、少し時間をかけて、全体会への報告について、討議したいと思う。今回から保健師にも出席してもらうこととなった。よろしくお願いたい。

社会的にも騒がれている野田市の小学校の事件や、目黒の事件、あるいはその間にあった浜松の3歳児の事件、いずれも悲劇的な結果になっているわけで、色々な角度で議論されようとしているが、明確に言えることが一つ、それはまさに我々が導き出した、連携、その決定的な欠落で、問題は何も解決していないのに、意識、アクションから離れてしまう、そういうことの連続の中で、事件が起きたと思う。一番問題視されているのが児童相談所（以下、児相）だ。私たちの場が、少しでも子どもにとって、あってはならない状況の改善、希望の光になるように、それぞれの力を重ねてしっかりと将来につなげていけたらと思う。

冒頭長くなりすぎ失礼した。

(2) 課題について

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

とりあえず、資料を一つずつ説明いただき、本題の連携は後にしたい。

特別支援学級の梅田先生お願いします。

○梅田委員（西伊興小学校）

区立小学校設置校 19校の教員と児童数の表だ。講師派遣のところは時数、介助員は実人数だ。データとしては30年5月現在のものだ。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

これについて確認や質問はあるか。傾向としては増える傾向か。

○梅田委員（西伊興小学校）

昨年比の欄に記載があるが、増えている。男子が27名増、女子は6名増だ。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

介助員の資格は？

○事務局浅輪（あしすと）

資格要件は特にない。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

講師は？

○事務局浅輪（あしすと）

教員免許が必要だ。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

事務局からの資料は、課題のマトリックスの完成度を高めていただいたということでもいいか。これについてご意見、補足説明はあるか？

○事務局浅輪（あしすと）

前回発言の趣旨が伝わっていなかったことを修正し、追加意見を加筆してある。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

最後の報告書の結論みたいなものとしてわかりやすいものだと思う。本筋が違っはいけないが、修正があれば、報告書が作成されるまでに事務局に報告いただきたい。

それでは来年度の中心テーマである関係機関の連携について、皆さんがそれぞれの立場で、領域の視点、思いがおありかと思うので、とりあえず委員の皆様から思いを述べていただき、共有するところから議論していきたい。順序は事務局で緩じていただいた順で報告、コメントいただきたい。

○古里委員（南花畑特別支援学校）

本校は足立区の特別支援教育のセンター校となっていて、子ども支援センターげんき（以下、げんき）と連携することが多い。就学相談、介助員の様子を見に行くなどで関わっている。専門家訪問相談ということで、子どもの行動観察などしている。それから、障がい福祉課や、家庭に支援が必要な場合は福祉事務所の方とよく連絡をとっている。また、いろいろな場所での会議に参加し、いろいろと連携している。年に3回ほど、エリアネットワーク、パワフルネットワ

ークで近隣の特別支援学校の先生方と意見交換等している。最近では小中学校に行く機会はあるが、高校には行く機会が少ないということで、最近ネットワークに高校の先生の参加が増えている。地域的交流で民生委員の方の会議にも出させていただき、特別支援学校を知ってもらうようにしている。来年度から一緒に関わり、顔つなぎができるよう取り組んでいく。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

民生委員の参加は、どれくらいの頻度か。

○古里委員（南花畑特別支援学校）

今年度は土台作りの状況で、まだ実績はない。来年度4月から実施したいと準備している。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

羽住委員はいかがか。

○羽住委員（民生委員）

地域の民生委員が中心になると思うが、特に主任児童委員が各小学校区にいますので、関わり、連携を取らせていただけたらと思う。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

特別支援学校だから、それぞれの地域で交流をするということでしょうか。

○羽住委員（民生委員）

協議会全体の協議事項として、かかわりを深めていくと思う。

○古里委員（南花畑特別支援学校）

少しでも知っていただけたらと思う。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

ほかの特別支援学校でも同様に動き出しているのか。

○古里委員（南花畑特別支援学校）

校長の方針で、他区でもやっていたようで、提案していただき、それに沿って進めて

いる。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

エリアネットワークは教育の中での話か。

○古里委員（南花畑特別支援学校）

はい、対象は教員だ。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

もっと広げてという話はないか。

○古里委員（南花畑特別支援学校）

今のところ、特別支援学校が中心だが、そういうのもあればいいかと思う。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

テーマはどのようなものか。

○古里委員（南花畑特別支援学校）

個別支援や学校生活支援シートなど、各学校での課題があり、時間が短いので、情報交換しながら、各委員からの報告やお互いの学校を巡回したり、コミュニケーションの連携会議などもやっている。

○林田委員（城北特別支援学校）

皆さんがやっていることの実践報告が随分ある。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

そういう意味では行政も入っている。

○江黒委員（手をつなぐ親の会）

センター校として、区立の小中学校と年間どれくらいアドバイスや保護者と話をしているか。どれくらい依頼があるか。

○林田委員（城北特別支援学校）

学校から、「介助員が必要」とげんきに話があり、依頼があって対象児のアセスメントをしている。介助員をつけても解決することばかりではないので環境設定など含めてフィードバックしている。

肢体（障がい）で延べ50回くらい行っている。

○江黒委員（手をつなぐ親の会）

手ごたえはあるか。

○古里委員（南花畑特別支援学校）

特別支援教室ができたことで、支援教室の先生が話を聞いてくれて、試行錯誤ができるようになり、よくなった。

○江黒委員（手をつなぐ親の会）

なかなか難しいということも聞いていて現状はどうかと思いついた。ありがとうございます。

○林田委員（城北特別支援学校）

城北特別支援学校は肢体不自由のセンター校になっている。城北分園とは様々な連携をしている。げんきとのパイプは太く、肢体不自由のお子さんを学校がどのように支援していいかわからないということが多く、定期的に保護者、学校を交えての支援会議を実施しているケースが7、8件ある。学校現場では先々まで考えられない場合もあるので、先の見通しをした話をしている。げんきから声をかけてもらっているからできると話している。福祉関係とのパイプは強い。福祉事務所とは学年を決めての支援会議を行っている。小2・小6・中3の保護者・本人を交えて行っている。高等部があるので卒業後の通所先とのパイプも太い。それぞれの法人とこまめにやりとりしている。区の障がい福祉課入所調整も関わりがある。また医療的ケアの関係で訪問看護、医療機関など、外部専門家でうめだ・あけぼの学園の先生などにもお世話になっている。区立小中学校とは交流、出前事業などで関わっている。相談支援事業所、児童相談所（以下、児相）などともやりとりしている。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

ありがとうございます。センター校がこの地域に二つあるということだ。

城北分園はどこに位置付けるか。

○林田委員（城北特別支援学校）

分園はいろいろな顔があるので、月に一回連絡会を持っている。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

狩野委員をお願いします。

○狩野委員（鹿浜菜の花中学校）

区立中学校の特別支援学級在籍で、関係している機関だ。まずはげんきとのかかわりが一番、それから放課後のこどもたちの居場所として、放課後等デイサービスを多くのこどもたちが利用している。児相は愛の手帳（以下、手帳）の取得で関わっている。手帳を取得していないお子さんも多いので、医師の診断での高等部進学などにつなげている。福祉事務所は保護者の養育能力的な困難さを感じたときに関わっていただいている。家庭の状況などを確認し、こどもたちの教育につなげている。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

梅田委員をお願いします。

○梅田委員（西伊興小学校）

小学校は、放課後等デイサービスを利用する方が多いので、つながりは多い。手帳のことも、小中連携で話を聞き、手帳がないと先の進路につながらないので、早めにとるように話をしている。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

都立葛飾ろう学校は？

○事務局勝田（あしすと）

（資料のみで）本日は欠席だ。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

葛飾ろう学校には後日みていただくとして、今の教育関係で共通の、関係する視点ではいかがか。

福祉事務所やげんきとのつながり、今家

庭が厳しい状況の中で、社会的養護のニーズが高い、とって公だけで背負いきれない課題もある。それは福祉事務所との連携で解決するものか？こどもと家族は安心度合いが高まるものなのか？

○狩野委員（鹿浜菜の花中学校）

かならずしもではないし、難しいと思うが、保護者の方が今置かれている現状がつかめておらず、養育がうまく回っていないことなどを理解しきれていない場合は福祉事務所の方と話しても危機感がないこともある。福祉事務所がかかわってくれる世帯には、支払いのことなどでは学校からするとありがたいところがある。そのあたりを福祉の方からも聞くことができる。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

そういう意味では、先生方からこの辺お願いしますと投げかけるとどうか。

○狩野委員（鹿浜菜の花中学校）

対応してくれている感じはある。

○江黒委員（手をつなぐ親の会）

特別支援学校に入るには、手帳が必要になるが、それは障がいのためか、それとも進学のためか。

○狩野委員（鹿浜菜の花中学校）

個人の考えとしては、進学のためとはしないほうがいいと思う。手帳取得は大きなことで、お子さんの将来のためにどうするか、最後は保護者の方に選んでいただく。自立と同じで、みなさん通る道で、特別支援学校への進学という、必要になったところで取得してもらおう。ただ、昨今手帳をとれるかとれないかのグレーな方や更新時に高い数値がでて手帳の更新ができないお子さんもいて、今から通常学級に転学してもついていけないだろう、と難しい方も出ている。特

別支援学級にくる子が増えている中、グレーな方も増えているが、特別支援学校に行くには手帳が必要で、難しいところだ。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

そのあたりの問題点は、教育サイドでは議論されているか。

○狩野委員（鹿浜菜の花中学校）

そこまでは、まだだ。これから少しずつ、学校現場で特別支援教室のフォーカスが当たっているところで、出てくると思う。学校サイドも専門的知識を積んで対応していかななくてはと思う。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

もっと大きな話になるが、そういう場合、手帳主義、診断主義から脱却しないといけないかと思う。その人が困り感を持っている、それに対しては必要な、合理的配慮に基づいた支援がされるべきかと思う。ここで議論することではないと思うが。

梅田先生はどうか。

○梅田委員（西伊興小学校）

手帳については、中学卒業後に、支援学校に入るために必要であること、持っている選択肢が広がるということを中学で聞いて、中学の先生も先のことを考えて早めに取得した方がいいという話をしている。保護者はそのあたりについて知らないことが多く、伝えていくと対応してくれることもあるが、自閉的なお子さんで勉強ができる子は取得できないなど、矛盾を感じることも多い。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

次は、公立保育園、清水委員をお願いします。

○清水委員（区立梅田保育園）

連携状況について、現在はここに書いた

通りだ。自分の園から私立園、小学校は就学先として、こどもをつないでいる。うめだ・あけぼの学園の療育を利用している園児、小山耳鼻科や王子クリニックを利用している園児もいる。顔を合わせてのやりとりということでの連携状況をあげているが、保護者の方を通しての連携となっているものもある。このあたりが課題かと感じている。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

渡辺義也委員どうか。

○渡辺義也委員（興野保育園）

一般的な保育園がどのような連携をとっているかを書かせていただいた。新しい保育園は、町会との関係は薄いようだ。それから保健センターでやっているネットワーク会議について、「それは何？」というところもある。保健センターとの連携が取れている保育園は以前からあり、課題を引き受けたところだと思うが、新しいところはそういう連携も薄いと感じている。また運営主体も株式会社なども増えていて、法人連絡会があるが、こどもも連携していない保育園があると思う。こどもの貧困対策とも、現在はこども食堂を中心に連携をとっているが、保育園によって、関りがでてくるかと思う。書き忘れたが、町会との関係は保育園は大事にしていると思う。主任児童委員、民生委員ともかかわっていることが多い。それと医療機関、足立区内の大学、養成校、実習生の受け入れなどの連携が進んでいるかと思う。これから考えられる関係図で、単体での保育園の関わりとは違うものだ。私立保育園係を管轄しているのが子ども施設整備課なのでそこの関係も深まっている。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

幼稚園での状況はどうか。

○寺山委員（足立つくし幼稚園）

つくし幼稚園としてはこどもの支援を中心に、保護者に対する支援をしている。連携では、保健センターでの3歳児健診に来ない子、児相からの問い合わせなどに答えている。小学校等就学先の運動会などを見に行くことで、教員の参考になっているようだ。公式・非公式でいろいろ行っている。げんき、あしすと、うめだ・あけぼのには色々お世話になっている。ほかの幼稚園にもお世話になっている。つくし幼稚園で難しいお子さんをもう少し小規模な幼稚園にご紹介できるかと思っている。葛飾ろう学校に通っている子もいる。医療機関、小山耳鼻科などとも連携している。ここに書いていないが、先日外国語対応の保育があげられていたが、私共でも、日本語が主な言語でない方がいて、どうしようもないときに、社協のボランティアで通訳をお願いしたこともある。今のところはそれで対応したり、あとは福祉事務所を通じて、聾の方に手話通訳でコミュニケーションをとったこともある。家庭で出来る療育支援を発達協会に頼んだり、幼稚園でできない支援をできるところをお願いしている。私立の幼稚園なので、介助員をつけるのが難しい。一般的にはしない。2年位前に個人で介助員をつけてくれた保護者がいて、それが非常にうまくいったことがあった。幼稚園としてのスタンスはボランティアだが、給与は保護者が支払っていた。私立幼稚園のこのような対応が手厚くなってくればと思う。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

ありがとうございました。幼稚園、保育園関係で確認などあるか。

保健センターでは、健診はどのようにや

っているか。

○近藤オブザーバ（保健師）

3～4 か月児、1歳6 か月児、3歳児健診など実施している。連携は個人情報に関わり難しいところもあるが、行っている。

最近妊娠中から心の病気をお持ちでフォローしている母親が多く、保育園につないでいくことなどは結構多い。

○加藤部会長（うめだあげぼの学園）

残りのフォローは出来ているか。

○近藤オブザーバ（保健師）

保育施設に在籍情報など連絡している。

○加藤部会長（うめだあげぼの学園）

受診できていない世帯にリスクの高い方がいるということか。

○近藤オブザーバ（保健師）

そうだ。

○加藤部会長（うめだあげぼの学園）

そういう世帯へのコンタクトはどうしているか。

○近藤オブザーバ（保健師）

家庭訪問等しているが、それでもコンタクトがとれない場合はこども家庭支援課にお願いしている。

○長谷川オブザーバ（げんき）

日中や夜間、こどもの姿を確認するまで訪問している。

○近藤オブザーバ（保健師）

もちろん保健師が日中、ポスティングや訪問を何回もしたうえでの対応となる。

○加藤部会長（うめだあげぼの学園）

それはどれくらいの件数あるか。

○近藤オブザーバ（保健師）

結構あると思う。

○長谷川オブザーバ（げんき）

安否確認できないお子さんがどれくらい

いるかは、今はわからない。

○近藤オブザーバ（保健師）

今、外国の方や日本と外国を行ったり来たりしている方も多い。

○松永委員（北千住ステップ）

訪問する住所はどこか。

○近藤オブザーバ（保健師）

住民票の住所にしている。

○松永委員（北千住ステップ）

3～4 か月となると転居していることもあるのではないか。

○近藤オブザーバ（保健師）

父親がこちらにいれば住民票は出る。

○加藤部会長（うめだあげぼの学園）

周産期前後のノイローゼの状況など、大きなテーマになると思うが、足立区の場合はどういう対応をしているか。

○近藤オブザーバ（保健師）

今年から専門の係を新設した。妊娠時にアンケート調査を実施、点数化して点数が高い方にはフォローをしないといけないと、妊産婦支援係の保健師が個別支援を行っている。だいたい3～4 か月健診で落ち着かれば、3歳児健診までは地区の保健師が継続してフォローしていく。

○加藤部会長（うめだあげぼの学園）

それ以降は？

○近藤オブザーバ（保健師）

追えるのは就学前までだ。

○加藤部会長（うめだあげぼの学園）

特別支援学校は？

○古里委員（南花畑特別支援学校）

メンタル面、言葉の面の課題のある方が増えている感覚はあるが、福祉事務所などと連携し、家庭訪問などしながら、こどもの安全を確認している。デイの方も家庭でお

母さんが落ち込んでいたよ、など情報連携して、対応している。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

うちもパンクしそうだ。最近いろいろ出てきていて悩んでいる。だから保健師や、いろいろな方に呼びかけ、支援会議を開いている。一か所、一人だけでは支えきれものではないので。気づいた人が呼びかけて、役割分担して、その都度やっている。

○古里委員（南花畑特別支援学校）

長期戦なので。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

その通りだ。就学する際どうなるんだろうと。

○古里委員（南花畑特別支援学校）

警察などにもお世話になる方もいる。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

警察にお世話なる前に予防的にどうするか。

○古里委員（南花畑特別支援学校）

こどもに手をかけそうになったら、警察に連絡してとしか言えず、最近警察も丁寧に対応してくれている。児相につながった方もいる。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

昨今、いろいろな要因で、ハードな話が結構ある。大きな話なのでここで議論することではないが、社会の寛容度が低くなって、すぐに問題がむき出しになり、あちこちに散見されている状況になっている。

通訳ボランティアは足立区にもあるはずだが。

○事務局勝田（あしすと）

地域のちから推進部地域調整課多文化共生というところで相談できる。※

○寺山委員（足立つくし幼稚園）

以前、教育委員会に相談したところ、「ありません」と言われた。独自に探して社協にお願いしたことがある。

知っている心強い。時間を合わせてでも来ていただきたいことがある。

○事務局勝田（あしすと）

翻訳機を使うこともある。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

多文化は避けて通れない、時代の趨勢。減ることはあり得ない。

○事務局勝田（あしすと）

まったく見当のつかない言語の方もいる。

○近藤オブザーバ（保健師）

多文化共生は本庁舎内の出張は可能ですが、外はだめ。英語を話せる方は多いが、それ以外の言語の対応ができる方が少ない。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

この辺の社会資源をどう掘り起こすか、タイムリーに活用できる仕組みなども議論になってくるかと思う。

幼稚園の個人的な介助員は制度的にはOKなのか。

○寺山委員（足立つくし幼稚園）

制度的には私立なので、幼稚園としてはボランティアとして。ガイドラインは園がそれぞれ持っているかと思う。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

ありがとうございました。

○江黒委員（手をつなぐ親の会）

手をつなぐ親の会は、都の会の足立支部としてやっている。どちらかというと就労、作業所を利用している方の支援が多い。会員にひよこやあけぼの利用の保護者もいるので、将来的なことでのアドバイスなどの関係で、特別支援学校の保護者や、様々な施設を利用しているお子さんの保護者との連

携がある。親の会として、諸機関と情報連携したり、社協、ほかの障がい者団体、民生委員とも細いがとっている。取れていないのが、病院、近隣幼稚園、保育園、老人ホームなど。区立の小学校も。問題があったとき個人で関わる状態だ。大人になると個人の問題になってしまう。学校、保育園では守ってもらえていたが、卒業すると個人で保護者が守っていかななくてはいけなくなり、アドバイスすることもある。まだまだ障壁が高いところがあると実感している。

○松永委員（北千住ステップ）

相関図として関係図をつくっていると思っていた。業務上どうしても関わる場所と支援に関わる場所は別だと思った。基本的には福祉事務所、相談支援と連携をとっている。あとは学校の担任の先生。トラブル時は保健センター、児童相談所など個々に連携をとっている。親の会の方々との交流が全くないと思った。研修会をまたやりたい、18歳越えてからの支援で、その方たちの声を聴く、踏まえながらやれたらいいと思う。町会、消防団、商店街などは地域ごとに加盟している。おおまかなところでは学校、相談支援員、福祉事務所などが連携というか連絡をとりあう間柄だ。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

ありがとうございました。

○渡辺直子委員（ネットワーキング）

支援機関として、あしすと、げんき、トスカ、ペアレントメンターの事務局など。利用者は、保育園、小学生、中学生、就労してからの方もいる。最近では電話で予約して来られる方、ネットを見て直接来る方もいる。学校などへはキャラバン隊として障がいの啓発活動もしている。地域の子育てサークル

はメンターが所属する機関に。就労関係はジョブコーチをしている代表とのかかわりが強い。他団体は同じようなNPOと情報交換してる。足立TSネットとはこれから連携をとっていきたい。日本ペアレントメンター研究会で研修し、メンター登録している。フォローアップ研修や、メンター向け講習会などもお願いしている。

先ほど話を聞いていて、私のこどもは支援学級と支援学校の両方に通っているが、保護者のもっている情報は全然違う。支援学級の先生は就労支援施設などを見たことがない方がいる。就労のために必要なことを小学校で書いてもスルーされることがあるので、少しでも役に立つことをと思うが、保護者の情報提供などを早めにしていただけるといいと思う。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

げんきはどうか。

○長谷川オブザーバ（げんき）

げんきは教育相談課、こども家庭支援課、支援管理課の3課あり、各課で関係機関は違うが、支援管理課は、関係機関が多岐にわたっている。やはり相談支援、その先につながるには皆様のお力を借りないとならない。私立小学校、中学校の相談も最近増えている。発達支援センター等いろいろな機関とつながっている。民生委員、ペアレントメンターにも研修等で関わっていただいている。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

それではあしすと幼児療育係。

○事務局勝田（あしすと）

あしすと幼児療育係は、児童発達支援センターとして通所、保育所等支援、外来個別指導等を行っている。進学先の学校などに

はチューリップシートに加えて情報提供など行っている。げんきの支援管理課とは必ず連携をとりながら、それ以外にこども家庭支援課などとの関わりも多くある。保健センターは地域支援の事業の中で、あしすとの職員がグループ支援で参加している。そのほかにも、児童発達支援事業所のネットワークでの研修なども行っている。事業所の困りごとの相談に伺ったりする連携も行っている。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

続いて民生委員どうぞ。

○羽住委員（民生委員）

私たちは民生委員ということで、組織ではなく人。内容的には全国民生委員児童委員連合会が作成したものをまとめた。障がい関係では近隣住民、地域密着型であるのが民生委員の一番のところだ。一人暮らしの高齢者、高齢者のみの世帯、障がい者世帯などに訪問する。行政からの要請がほとんどだが、近隣住民からの身近な情報などを各機関につなげていく役割と違って行動している。特に福祉事務所とのかかわりが深く、依頼を受けた方の見回りをしている。専門機関につないでいくのが役割と思っている。要援護者対応では町内会、自治会とも連携をして対応していかなくてはならないということで、対象者の名簿をお預かりして対応している。ほかに調査や相談にのったり、助言などを行っている現状だ。障がい者のみというわけではないが、全国（的な数字として）の民生委員が専門機関につないでいるのは3,700万回ときいています。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

ありがとうございます。要支援者リストの話があったが、どのようなものか。

○羽住委員（民生委員）

災害時要援護者リストというものがあり、例えばその方が避難所に来ていないときに確認するなどしている。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

連携は。

○近藤オブザーバ（保健師）

高齢単身、手帳をお持ちの方など、福祉部の中では民生委員さんに支援が必要な人と何年か一回支援の必要性等を確認している。

○竹内委員（肢体不自由児者父母の会）

書いた方からすると、（リストが）どういう風に管理されているかが見えてこない。出したものの確認にいらしたことがない。名簿がどう管理されているか、出す方としては不安。どういう風に関わりを持ってくれるか見えない。

○江黒委員（手をつなぐ親の会）

（親の会の会員さんでも）出していない保護者も結構いる。災害時民生委員も自身の対応もあると思われる中、わざわざうちの子を助けにこられるのか等の意見もある。訓練も毎年やっているようだが、関係ないところでやっているの。

○加藤部会長（うめだあけぼの学園）

それは前回まで検討してきたテーマの災害時対応であがっているの、次年度にぜひ検討していきたい。

私の資料の説明をする。一枚目は本人、家族の支援を平面的に扱っている。二枚目は時系列、ライフステージごとにこんなニーズにこんな機関が機能している等立体的に表現したものだ。次からは連携、相談する必要があるときに、相談をある程度カテゴリー化して、19の段階を、6つ〜7つのプロセスに分けている。内容的に連携をどう考え

るか、時系列、年齢でどうかかわるか、そのあたりを少し、まとめあげるとこのような形かとイメージして作っている。

まとめということだか、報告書という形で作成する。今日を含めて5回の議事録等がまとめてあり、この間の資料も積みあがっている。足立区のこどもの状況、様々な状況を抱えている子どもたちの実状がマルチフォーカス、立体的にわかってきた。必要と思う対策、協力していかなくてはいけないことがらなどが浮かびあがっている。それぞれの活動、場面での連携の姿、実態を紹介いただいた。来年度からは、これについてじっくり検討、具体的なアクションをしたいと思っている。

今年度の報告書をどうするかということだが、ネットワーク図を示し、これだけの機関が動いているということをもとめあげていく、データの的に前例のないことだと思うので、報告書の中に盛り込んでいただくわけだが、資料1と連携図、また話題として出てきたことをいくつか入れていただき、また皆さんのそれぞれの場でのデータ、ベシックなものとして知っておいたほうがいい情報も提示いただいた。ある程度時系列で並べればそれなりの報告書ができるかと思う。時間的には？

○事務局勝田(あしすと)

2月21日に行う全体会に提示する都合今週中くらいにはとりまとめが必要だ。

○加藤部会長(うめだあげぼの学園)

部会長である私と事務局に任せていただきたい。

事務局等にはご尽力いただき、回数多く取り上げていただき、委員の皆様にも再三資料提出もいただきありがとうございます

た。

今回はこの辺で終わりたいと思います。

○事務局勝田(あしすと)

部会の議事録は案ということで発送後、区HPに掲載します。

来年度のこども部会は、本会議決議後に改めてお知らせいたします。

委員の任期は2年間をお願いしていますので、人事異動等あるかと思いますが、基本継続していただければと思います。

以上を持ちまして、終了させていただきます。

一年間ありがとうございました。

※地域のちから推進部地域調整課多文化共生担当の通訳ボランティア派遣は、区役所内または区立機関のみとなります。

課題							
保護者・家族支援	孤立している保護者への対応のあり方	本質的な保護者支援ができていない	保護者支援のあり方について	保護者支援（保護者の思いと子どもの実態とのギャップ、選択肢が少ないこと）	家族支援のあり方について	保護者や子どもを孤立させない	子どもが困っていても、職員が保護者にうまく伝えられず、気づかないため支援の機会を逸してしまうことがある
	地域とのかかわり方が難しい	保護者が孤立しない支援の方法を模索したい					
障がい理解・支援	小学校の3・4年ころから、二次障がい配される	個人情報保護の問題もあり、内容によっては立ち入れないことがある	子どもの障がいは多種多様なので、どのように理解していくかが難しい	園によっては、発達支援全体の問題に関心が薄く、積極的でないところがあり、意識のレベルの違いが大きい	障がいの理解や受け止め方もさまざまで、時としてそれが壁になって課題の解決につなげられない時がある	特別支援教育について（支援を受ける子は増えたが、根底に愛着の問題がある場合もあり、支援がうまくすすまないケースもある）	障がいを理解するための制度はあるが、中身をつめることなく実施していて、機会を生かしきれていない
	特別支援学級でどんなことをしているか啓発が必要						
相談窓口	相談の窓口がわからない保育園が増えている	子育てに困り感をもっているときに相談できるところが少ない	気軽に相談できる機関が少ない	外国籍の方への対応	障がい受容のために、保護者同士が情報交換できる場が必要	「障がい」ではなく「子育て相談」として利用できる窓口があるとよい	グレーゾーンの方の相談先やサロンのようなところがあるとよい
機関連携	行政機関とのパイプ役であり、専門的ではない	事業者連携・事業者交流について	他機関と顔を合わせて検討する時間がもてない	特別支援学校等を見学し、知識を習得して支援をしていきたい	学校以外の療育に通うことで生じた考えや思いを、どう学校に取り入れていくか	放課後等デイサービスについて 障がい児の居場所が増えたことは望ましいが、デイサービスですごす時間の「質」や、預けっぱなしで親子で向き合えていないのではないか、という問題を感じます	大学教員・学生とのつながりがあるとよい

体制・スキルアップ	職員一人ひとりのスキルアップ	学校は、「専門職派遣事業」や「学校支援事業」などの制度を活用し、こどもの特性に応じた環境調整をしてほしい	介助員が少ない	重複障がいの方が増えているが、必要十分な対応が難しい	職員によって情報や知識の量がちがうため、研修による情報の共有が必要	保育園が増えていて、地域との連携ができていない・地域の情報を知らないところがある	啓発・意識の改革必要
防災等	防災の観点から、地域とのかかわりが希薄なこと	防災や感染症の対応について	警察・消防団・町会等と連携した防災ネットワーク				
不登校対応	不登校のこどもへの対応	不登校になった子のつなぎ先が少ない					